

呼吸器外科



診療科紹介 HP

診療部長紹介

聖マリアンナ医科大学呼吸器外科主任教授の佐治久と申します。

当科では「低侵襲で質の高い根治手術」と「諦めない肺癌治療」を診療理念に掲げ、原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、自然気胸など幅広い疾患に対して、専門性の高い医療を提供しております。胸腔鏡手術や縮小切除を積極的に取り入れ、呼吸機能の温存と患者さんへの負担軽減を心がけています。

また、胸部CTやFDG-PET、超音波気管支鏡などによる精度の高い診断に加え、呼吸器内科との緊密な連携による集学的外科治療にも力を注いでいます。

今後も地域医療機関の皆様とさらに連携を深めながら、患者さんお一人おひとりに最適な医療を、迅速かつ丁寧にご提供できるよう努めてまいります。

ご相談・ご紹介はお気軽にお寄せください。



診療部長

佐治 久 (主任教授)

診療科の特色

原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、自然気胸、胸壁疾患など、幅広い呼吸器疾患に対して年間280例以上の手術を行っています。痛みが少ない胸腔鏡手術（単孔式）、機能温存を目指した縮小切除（区域切除、楔状切除）を積極的に取り入れ、身体に優しい根治手術を実現しています。肺癌においては、呼吸器内科と連携し、最新のFDG-PET、蛍光気管支鏡、超音波気管支鏡を駆使して早期発見に努めています。呼吸器外科専門医やがん治療認定医などの資格を持つ熟練スタッフが、組織型、病期、遺伝子変異に応じた標準治療を提供します。最近は周術期抗癌剤治療、分子標的治療、免疫治療を併用し、手術成績の向上を目指す集学的治療にも取り組んでいます。担当医が十分に説明を行い、患者さんにご家族にご納得いただいたける医療を提供しています。

患者さんのご紹介について

 聖マリアンナ医科大学病院
ST. MARIANNA UNIVERSITY HOSPITAL

 044-977-8111 (代表)

紹介受付時間：平日 8：30～15：00
土曜 8：30～11：00



044-975-0608

医療機関からのWEB予約サイトはこちら



 聖マリアンナ医科大学病院
患者さんの紹介について

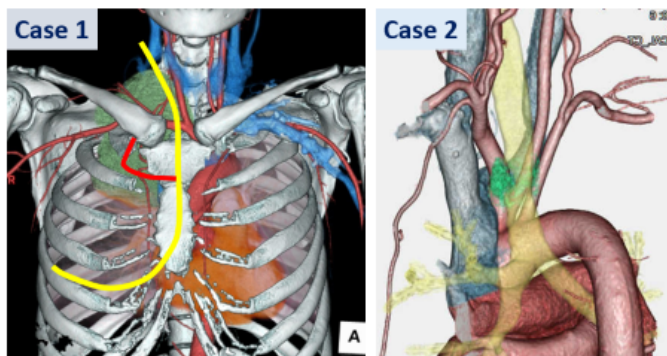
お問い合わせ先：メディカルサポートセンター



◇難治性肺癌に対する集学的外科治療「あきらめない肺癌治療」

がんの統計 '24では部位別がん死亡数では男女合わせて肺がんが最も多く、計算では1年に13万人が肺がんになり、その多くの8万人がお亡くなりになるという難治性癌の代表であります。

がん治療において外科治療は最大の完治治療であります。日本胸部外科学会学術委員会報告では2018年の原発性肺がん手術件数は4.5万件が施行されており、診断されて手術が可能な患者さんは4割しかおりません。当科では術前後に抗癌薬物療法、放射線治療、免疫治療等（一部、治験・臨床試験）を加えることにより外科治療成績の向上を目指した、集学的外科治療を行っております。



◇低侵襲機能温存手術で身体にやさしい手術を提供

胸腔鏡・自動縫合器・エネルギーデバイスをはじめとした手術機器の発達とシンスライスCTなど画像診断技術の普及に伴い早い段階で各種疾患が発見されてきている時代である。さらに昨今の高齢化社会の到来に伴い、当科では創部を小さく（症例によっては単孔、3cmの一つの傷で）、痛みを軽減した低侵襲なアプローチに加えて、肺実質の切除範囲を縮小（区域切除、楔状切除）した機能温存手術により身体にやさしい手術を提供します。



○単孔式胸腔鏡手術外来

さまざまな低侵襲手術の方法がありますが、当院では傷1カ所だけの「単孔式」胸腔鏡手術（Uniportal VATS）を提供可能です。単孔式胸腔鏡手術は、従来の複数の傷（穴）で行う胸腔鏡手術よりも、体のダメージが少ないことが大きな利点です。対象者の年齢、性別、体格を問いません。小さな子どもから高齢者まで提供できます。

外来日： 月（午後） 木（午後）

主な対象疾患

- | | |
|---------|-----------|
| ○原発性肺癌 | ○胸壁疾患 |
| ○肺良性腫瘍 | ○自然気胸・ |
| ○転移性肺腫瘍 | 嚢胞性肺疾患 |
| ○縦隔腫瘍 | ○悪性胸膜中皮腫 |
| ○先天性肺疾患 | ○膿胸 |
| | ○手掌多汗症 など |

下記、症状がある方は、ぜひ一度
ご相談ください

- 長引く咳がある方
 - 血痰のある方
 - 喫煙歴のある方
 - 胸部検診で異常を指摘された方
- など